

わが校の紹介

喜びいっぱい
いのちいっぱい
—夢と希望を—

養父市立八鹿小学校

校長 小畑宏明

八鹿小学校の校庭には大銀杏の樹がそびえている。秋には「芽が出たい、芽出たい、めでたい・・・」と、大地に実を落としてくる。

幾歳月、本校の歩みとともに八鹿っ子の活躍を見守ってきた大銀杏。今は黄金色に染まり、さわやかな光を受け、ひらひら舞っている。

校舎の前庭には、「希望の塔」がある。創立111周年（昭和59年）の時、「この学校で学んだ一人ひとりが明る

窓

子どもが感銘する時

ある中学生が、学校でカンニングをして先生に見つかりました。担任の先生がその子の父を学校に呼んで注意するということになりました。父が帰ってきたら、きつと強く叱られるにちがいないと覚悟していたのです。

その子の作文—
『父は学校から帰ってきた。

い夢と希望を持ちたくましく成長してくれることを願ってこの塔を建立した」とある。この塔は、当時の同窓会とPTAの役員さんが中心になって計画し、多くの人々の労力奉仕により、手作りでこの塔が建設されたようである。この中には卒業の時、二十歳の私の「メッセージや思い出の写真、テープ、作文などが桐の箱に収納され、年次ごとに保管されている。そして、



成人式を迎えた年に同窓会を開き、希望の塔を開扉する。この塔の開扉と同窓会の計画、準備は、同窓会役員とその年次の世話係が進められている。先輩が若い後輩を育て、微笑ましい伝統の一つであると思う。こうした環境の中で、現在302人が「やる気と喜びにあふれる学校」をめざして、元氣いっぱい学んでいる。児童会では、「あいさつ日本一」「こみゼロの学校」が合言葉だ。今日も児童会役員が校門でみんなを迎え、「おはようございます」とはずんだ声が飛び交い、八鹿っ子の一日が始まる。こうした中、自ら学び、自ら考え、自らの思いや考えが伝え合える八鹿っ子の育成に教師も子どもとともに励んでおり、来年6月には県算数の研究発表会を予定している。

何も言わない。母はおろおろしている。夕食も終わり、弟たちはテレビのある部屋に移ってしまった。いつもならほくもテレビの前に行くところだが、今日は、その気になれない。雅也、どうだ気持ちは「父の雷を期待していた僕は予想外で何も言えない。父は、雅也、お父さんも学生時代、何度かカンニングをやった。何だ。楽をして良い点をとった

いのが普通だ。しかし、人間の良し悪しは、それをやるかやらないかで決まるんだよ。元気でやろうぜ」と言って、父はカンニングをしたことは一言もふれずテレビの方へ行ってしまった。後姿を見てもみません」と謝った。この作文は、子ども心をふり立たせるものは何か。というのを教えてください。(学校教育課)

まちの文化財⑦

馬瀬奥ケ口一号墳

1560メートルのトンネルを掘って日高町知見から養父市八鹿町馬瀬までを結び、延長2770メートルの知見八鹿道路整備事業に伴う工事用道路の建設が進められています。

今から190年前に伊能忠敬の測量隊（永井隊）がこのルートに測量しました。文化11年（1814）1月、伊能忠敬は日本地図を作るために養父市を訪れました。

測量日記には「正月18日、昨日より雪、今朝も降る、午後止、晴天」とあります。この日、高柳村を出発して梅坂峠から九鹿村に入り、そして馬瀬村から知見坂峠をこえて知見村まで測量しました。

このルートを通る道路の建設工事に伴って、養父市教育委員会は埋蔵文化財調査を実施しました。馬瀬熊野神社の東側150メートルの位置に奥ケ口一号墳古墳があります。

古墳は標高119メートルの小高い尾根上に作られたもので、規模は東西14メートル、南北9メートルあります。山側に溝を掘って区画する円墳です。古墳からは

鉄製の大刀や刀子とよばれるナイフが出土しました。他にも須恵器の杯とよばれる土器が2点出土し、6世紀前半に作られた古墳であることが分かりました。

また、古墳の山側の斜面で10体の石仏が並んで出土しました。16世紀に作られた板碑形式といわれる石仏です。

熊野神社の北側に一ツ栗古墳があります。この古墳の付近で新しく4基の古墳が見つかりました。ここから上流の石堂・中村では古墳が見つかっていない。

私たちの祖先が土の中に残した生活の痕跡を埋蔵文化財と呼びます。1500年も昔に人々が生活した証拠が古墳なのです。

(学校教育課)



文化財調査の様子